



岐阜県政記者クラブ加盟社 各位

| 令和5年2月14日（火）岐阜県発表資料 | | | |
|---------------------|-------|------|--|
| 担当課 | 担当係 | 担当者 | 電話番号 |
| 文化伝承課 | 伝統文化係 | 末松光孝 | 内線 3145 直通 058-272-8759 FAX 058-278-2824 |

岐阜県重要無形文化財の指定について

県は、県文化財保護審議会の答申に基づき、下記文化財を令和5年2月21日付けで新たに岐阜県重要無形文化財に指定します。

記

<岐阜県重要無形文化財（2件）>

| 名称 | 保持者 | 所在地 | 文化財の概要 |
|--------------|--|------|--------|
| さんさい 三彩 | <small>ななだい</small> 七代 <small>かとうこうべえ</small> 加藤幸兵衛 <small>かとうやすひで</small> (本名：加藤裕英) | 多治見市 | 資料1 |
| にほんとう 日本刀 | <small>おがわかねくに</small> 尾川兼國 <small>おがわみつとし</small> (本名：尾川光敏) | 山県市 | 資料2 |

資料1 さんさい 三彩

| | | | |
|-----|---|-------|---|
| 名 称 | <small>さんさい</small> 三彩 | 保 持 者 | <small>ななだい</small> 七代 <small>かとうこうべえ</small> 加藤幸兵衛 (本名： <small>かとうやすひで</small> 加藤裕英) |
| 説 明 | <p><特徴等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・三彩は、二種以上の色釉<small>いろゆう</small>を素地の上に直接掛け分けた陶器（技法）であり、8世紀に中国から唐三彩<small>とうさんさい</small>が伝播して以降、その施釉技法が奈良三彩<small>ならさんさい</small>や美濃焼を含む施釉陶器<small>せゆう</small>の発展に大きな影響を与え、日本の工芸史上重要な位置を占めるとともに芸術的にも価値が高い。 ・加藤氏は、多彩釉陶器<small>たさいゆう</small>の制作技法を高度に体得し、国の重要無形文化財「三彩」の保持者となった父加藤卓男氏<small>たくお</small>の助手として8年に及ぶ正倉院三彩<small>しょうそういんさんさい</small>の復元に携わり、これに精通している。そして、現在まで人材育成や若手陶芸家の指導を積極的に行い、その制作技法を伝承することに貢献してきた。 | | |



資料2 にほんとう 日本刀

| | | | |
|-----|--|-------|--|
| 名 称 | <small>にほんとう</small> 日本刀 | 保 持 者 | <small>おがわかねくに</small> 尾川兼國 (本名： <small>おがわみつとし</small> 尾川光敏) |
| 説 明 | <p>〈特徴等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本刀は、<small>すみき</small>炭切りから<small>めいき</small>銘切りまでの刀匠が関わる全ての工程による制作技術であり、戦国時代以降、関の刀匠が全国に移住し、その文化を広めた。 ・尾川氏は、南北朝時代から現在まで途切れることなく継承されてきた関の刀剣文化を受け継ぎ、美しさと強靭さを兼ね備えた刀剣を制作し、打ち寄せる波を表現した刃紋「<small>どうらんば</small>濤乱刃」を再現した。また、令和3年度まで<small>せきでん</small>関伝日本刀鍛錬技術保存会<small>たんれん</small>刀匠部会長を務め、関の刀剣文化の核として、保存・活用に積極的に尽力してきた。 | | |



※岐阜県重要無形文化財の指定は、今回の指定により6件になります。